



クレヨンハウス通信

crayonhouse Vol.448

発行人=落合恵子 編集・発行=クレヨンハウス 東京都港区北青山3-8-15 TEL03(3406)6308 FAX03(3407)9568(全館共通)
大阪店=〒564-0062 大阪府吹田市垂水町3-34-24 TEL06(6330)8071 FAX06(6330)8075 2018年5月1日 毎月1回1日発行 300円(送料込)
年間購読料 3,600円(送料込) デザイン制作=相原みと 成嶋真己子 写真=宮津かなえ 印刷=文唱堂印刷株式会社

スマホから
アクセス



クレヨンハウスホームページ・web ショップ <http://www.crayonhouse.co.jp>

【落合恵子のクレヨンハウス日記】

スニーカー、ソックス、木綿のシャツ、 5月には純白が似合う。

★5月には、そう、純白が似合う。
そして、きれいなブルーも。
初夏の空の色。それを映した
海の色。真夏のそれとは違う、ゆっ
くりと温められた白い砂浜。

5月には純白とブルーがよく
似合う。
遠い昔、5月の海辺。子ども
のわたしは白いピケ帽をかぶっ
て、海風に飛ばないように、ゴム
紐を顎に回していた。一緒に行っ
た友だちは貝を拾ったり、砂で家
や動物を砂浜に作っていた。

みんなからふらつと離れて覗い
た潮だまり。波が岩の窪みに作っ
た小さなプール。緑色の藻が揺
れる向こうに、それはきれいなす
ばしこいブルーの魚を見つけた。
自分の小指と同じぐらいの魚だっ
た。そのブルーがあまりにきれい
で、友だちを呼びにいった。戻
った時には魚は潮だまりから消え
ていた。ゆらゆら揺れる藻をかき分
けて探したのだが、どこにもい
なかった。波に乗って海に戻った
のだったか。

いまでも美しいブルーは時折、
眠りの縁に甦る。
「あ、この色！」

夢の中のわたしは叫ぶのだが、
次の瞬間、夢から覚めて、わた
しはまたもやブルーの小さな魚を
とり逃がしてしまうのだ。

★3月22日、春分の日の翌日に
この原稿を書いている。
昨日の東京は、朝からの小
雨が午後になると横殴りの雪に
なった。その激しい雪の中「さよ
うなら原発1000万人アクション」
の集会在代々木公園で。ほ
ぼ1万人の方々が、集まってくだ
さった。

吹き曝しの公園で立ったまま
の方々。手書きの抗議のプラカー
ドを掲げる手もかじかんでいたに
違いない。風邪を引いておられな
ければいいのだけれど。
森友文書の改ざん問題にして
も、誠実な説明をわたしたちは
まだ全く手にしていない。トカゲ
のしっぽ切りで終わらせてはなら
ない。この問題にからんで、ひと
つの人生が自死という形で終わっ
ているのだ。

春分の日の時ならぬ雪。みな、
自前の暖房、熱い気もちと憤り
で冷えた身体を温めておられた。

★4月に、久しぶりに小説を刊
行する。出版社のご担当が計算
してくださったところ、長編小説
はなんと22年ぶりだという。母
を見送ってこの春で10年。その前
のおよそ7年の介護の日々は、長
編などまったく書けず、たまに短
編、あとはエッセイやコラムだっ
た。

タイトルは『泣きかたをわす
れていた』(河出書房新社)。
その中の一場面に、ブルーの色
について、冬子という名の子ど
もが若い母親に訊く場面がある。
ブルーは水色なのか、空色と呼ぶ
のか、と。母親は小さな娘に次
のように答える。
「冬子ちゃんの水色と思えば水
色、空色と思えば空色でいいのよ」
その日から何十年もたって、認
知症の中を遊泳するような「あつ
ち側」と、娘と共にいる現実の中、
「こつち側」との間を往復する母
親の介護をしながら、冬子がふ
と思ひ出すのが、幼い日、母と交
わしたその会話だった。なにげな
い会話が、何十年という時を経
てありありと甦る時。

全体はフィクションであるのだ

が、主人公の冬子はわたしに近い
存在であり、子どもの本の専門
店をやっている。
ひとは、いつ、どこで、どのよ
うにして、一度は手離した(介護
の日々はそう思えた)自分自身
を再び手にするのか。自分を「生
き抜く」とは、そしてさほど遠く
ではない死は、どんな意味を持つ
のか。自由とは解放とは……。

登場する女友だちも、わたし
の心深くに居て、いつも厳しく、
そして優しくわたしを見てくれ
ている。既に見送ったひとばかり
だ。
★風が心地いい夜には、こんな絵
本はいかが？
『うみべのまちで』(ジョン・シュ
ウォーツ/文、シドニー・スミス/
絵、いわじょうよしひと/訳)。
海辺の町で暮らす少年と、同
じ家で暮らしながら、少年が遊
んでいる時間にはいつも海の下に
掘った炭鉱で働く父親。祖父も
そうだったし、少年もそうなるの
だろう。

冊。 淡々とした日常を深く描いた一



『うみべのまちで』
ジョン・シュウォーツ/文
シドニー・スミス/絵
いわじょうよしひと/訳
BL出版/刊
1,728円(税込)

Woman's EYE

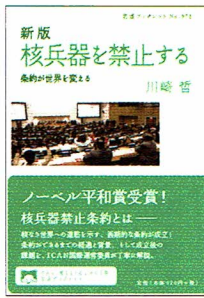
vol.284

〈本のつくり手による新刊紹介〉 毎月生まれてくるたくさんの本たち。それらはなぜ出版されたのか。どう読まれたらいいのか？ 編集者・翻訳者・営業担当者など、本をつくるひとたちに、紹介していただくユニークな書棚です。書店では見落としがちな本たちの、本音を聞いてください。

新版核兵器を禁止する
 条約が世界を変える

核兵器の廃絶。重要だけれど重いこのテーマ（本の売行も渋い）で、昨年は大きな飛躍が続きました。核兵器禁止条約が成立したこと、そしてそれを推進してきたNGO、核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）がノーベル平和賞を受賞したことです。ICAN国際運営委員をつとめる筆者による本書は、一気にかつくり切った、新たに条約の内容や成立後の課題などを新版としてまとめられました。

（岩波書店 熊谷伸一郎）



川崎哲 / 著
 岩波書店 / 刊
 670円（税込）

思想の廃墟から
 鵜飼哲 岡野八代

「民主主義の中には悪魔がいる」。この本の冒頭のいきなりの文章に、私は衝撃を受けました。表現の自由があるからヘイトスピーチは処罰できない、のではありませんか？ イスラムを侮辱する絵を掲載したフランスの新聞社が襲撃されたことへの抗議デモは民主主義的と言えるのでしょうか？ 私たちの民主主義とはいったい何だったのか。何度も問われてきたはずの問いを、今、また問い続けます。

（彩流社 出口綾子）



鵜飼哲、岡野八代、田中利幸、前田朗 / 著
 彩流社 / 刊
 2,484円（税込）

小選挙区制のワナ
 与党が国政選挙で5連勝、しかも改憲に必要な3分の2を占め続けるという日本戦後史上初の事態。その根拠が4割の得票で7割の議席を占める小選挙区制なのは明白なのに、それを指摘する声はメディアでも大きくありません。危機感を共有した著者たちが、小選挙区制の問題点を掘り下げたのが本書。制度論はもちろん、読者に関心に沿って原発や官僚制との関係など多角的に論じられています。

（かもがわ出版 松竹伸幸）



選挙改革フォーラム / 編
 かもがわ出版 / 刊
 648円（税込）

シリアの秘密図書館
 瓦礫から取り出した本で図書館を作った人々

このノンフィクションの舞台は、シリア政府に服従しなかった結果、猛烈な攻撃を受けることになった町ダラヤ。ニュースで目にするような空爆の背景には何があるのか、煙の向こうで市民はどう生活しているのか。さらに、住んでいる町が戦場になった人々が本や図書館を渴望した理由とは。本書は、それらの答えを明確に示してくれます。ニュースを見る目が変わる、そんな1冊です。

（東京創元社 桑野崇）



Les Passagers de l'Éternité de Darraïya / 著
 デルフィーヌ・ミヌーイ / 著
 藤田真利子 / 訳
 東京創元社 / 刊
 1,728円（税込）

犬房女子
 犬猫殺処分施設で働くということ

本書は、2013年春から熊本県動物管理センターで働き始めたふたりの女性が目の当たりにした殺処分の現場を描くノンフィクションです。救いたくても救えない無力感。読むのがつらい場面もありますが、それが各地の施設の現実。重いテーマを広く知ってもらうために、ライトな装丁・挿絵にしています。動物愛護活動にとりくむ女優の杉本彩さんに推薦をいただきました。変えるのは私たちです。

（大月書店 森幸子）



藤崎童士 / 著
 大月書店 / 刊
 1,728円（税込）



中澤正夫 / 著
 本の泉社 / 刊
 1,620円（税込）

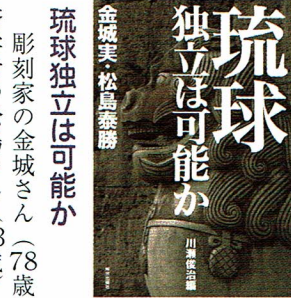
「福島に生きる」ということ
 バラバラ・ハラスメントを超えて

精神科医の中澤正夫さんは、原発事故以来、「贖罪」意識から福島に被災地に通い続けてきました。目にするのは、放射能汚染によって地域や家族がバラバラになり、孤立する人々の苦悩。同時に中澤さんは、このバラバラ・ハラスメントを乗り越えて地域新生を探る試みに、日本の精神医療における脱施設化の光明を見いだします。「こんな無様な世の中では死にきれない」。老齢 医師の最新エッセイです。

（本の泉社 伊藤知代）

琉球独立は可能か
 彫刻家の金城さん（78歳）と経済学者の松島さん（53歳）の琉球独立への迫り方は、当然違う。だからこそ幅広い議論を重ねられた。歴史的体験を繋ぐ作業もこの本でなされた。金城さんは山内徳信読谷村長（当時）の米軍基地返還の取り組みを紹介し、いかに戦略が大事かを松島さんに伝えた。辺野古新基地建設反対運動の渦中にある対話は緊張感に包まれ、全身で状況を変えようとする意気込みは半端ではなかった。

（本書編者 川瀬俊治）

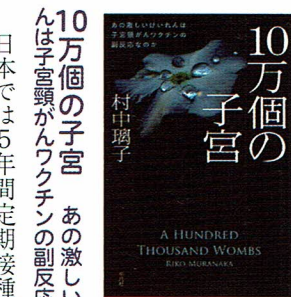


金城実、松島泰勝 / 著
 川瀬俊治 / 編
 解放出版社 / 刊
 2,376円（税込）

10万個の子宮
 あの激しいけれども、子宮頸がんワクチンの副反応なのか

日本では5年間定期接種が一時停止されたままの子宮頸がんワクチン。世界中で使われ、科学的にも安全性が確認されているのに接種再開されない原因には、日本社会のあり方やメディアの報道姿勢、科学者の誠実さなど様々な問題が潜んでいました。筆者は現役の医師でジャーナリスト。本当に女の子たちのためになることを問い続け、執筆活動してきました。タイトルの意味は、本書をお読みください。

（平凡社 岸本洋和）

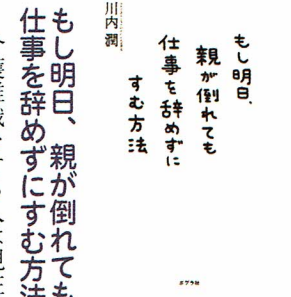


村中璃子 / 著
 平凡社 / 刊
 1,728円（税込）

もし明日、親が倒れても仕事を辞めずにすむ方法

介護離職をする人は現在約10万人。多くの人にとって無関係ではありません。いざというときは自分が面倒を？ そんな不安がある方はぜひ本書を。介護って制度や施設の種類など難しいイメージがありますが、それらは専門的で流動的な知識。本当に必要なのは予兆を察知し、相談先を知り、介護休暇を上手に使うなどの実践的な知恵です。本質的なアドバイスをもとに前向きに介護に備えましょう。

（ポプラ社 天野潤平）



川内潤 / 著
 ポプラ社 / 刊
 1,296円（税込）